

2021 年 8 月 18 日

## 中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ

### 2021 年度前期活動報告書

#### 抄録

2021 年前期より、FOREST GATEWAY CHUO 5 階のアカデミック・サポートセンター内に移転し、活動を行った。4 月開室当初より対面セッションとオンラインセッションの同時開室を実施したが、コロナ感染再拡大に伴い、緊急事態宣言中はオンラインセッションのみ実施した。対面セッションとオンラインセッションの同時開室は、受付や学生への連絡等の事務業務が煩雑であったものの、大学院事務室から事務業務の支援を受けたことで、大きな混乱なく、同時開室が実施できた。セッション数は 425 件、稼働率は 37.4%であった (I-3)。なお、ライティング・ラボ協の自習スペースについては、利用学生も多く、アカデミック・ライティングを身近に感じる場としての役割も期待したい。

オンラインセッションの実施は 2 年目となり、チューターに慣れが見られること、研修の成果が出てきたことから、昨年度より良質のセッションを提供できたといえよう。しかしながら、学内勤務時は可能であったセッションに関するチューター間での相談が、在宅勤務時は難しく、チューター間のセッションスキルの学び合いが生じないという点に課題があった。そこで、今学期の研修は、チューター間での学び合いが生じるように、シニアチューターが企画・実施した。チューターがセッションにおいて難しいと感じる課題を取り上げ、シニアチューター中心に研修を実施することで、チューター間の学び合いに結びつき、セッションの質の担保・向上に繋がったといえる。

また、ライティング・ラボの周知を主目的とし、セミナーとワークショップを合計 5 回実施した。オンラインセミナーは昨年度も実施したが、オンラインワークショップは本年度初の試みである。セミナーは昼休みに実施し多くの学生が参加しやすく、ワークショップはワークが好評であったことから、来年度以降もセミナーとワークショップを組み合わせる形で、ライティング・ラボの周知とともに、アカデミック・ライティングを身近に感じるきっかけ作りとして実施を継続していきたい。

以 上

## はじめに

2021 年度前期におけるライティング・ラボの活動状況について、以下の通り報告する。  
I では開室状況と利用実績、II ではセッション以外の活動、III では来期にむけて特筆すべき  
所見を述べる。

## I 開室状況と利用実績

### I-1 開室期間と日数、チューター配置数

開室期間：2021 年 4 月 14 日から 2021 年 7 月 21 日までの月・火・水・木・金曜日

開室日数：70 日（前年度 36 日<sup>1</sup>）

設置セッション数：1137 コマ（前年度 261 コマ）<sup>2</sup>

アカデミック・ライティング部門長：尹 智鉉

スーパーバイザー（SV）：中野玲子

アソシエイト・スーパーバイザー（ASV）：峰尾菜生子

シニアチューター（ST）：5 名

チューター：9 名

### I-2 受付方針（2021 年度前期）

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類（対象文章かそれ以外か）に基づく。

#### 1. 対象文章

授業で課題となったレポート、発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿（スライド、口頭用）、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策学部プロジェクト活動報告書

#### 2. 空きがある場合につき、受け付ける文章（例年は予約不可）

奨学金応募書類に含まれる志望動機書

留学志望書

<sup>1</sup> 前年度はオンラインセッション準備のため、例年より 1 か月以上遅い 5 月 25 日より開室した。

<sup>2</sup> 稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。開室日を週 5 日としたこと、大学院事務室より事務業務の支援を受けたことが、設置数の増加に繋がっている。

公務員試験練習課題

外国語／日本語翻訳（授業の課題のみ）

そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

### 3. 受付不可とする文章

就職活動関係の文章（キャリアセンターへ案内）

メールや手紙の文章

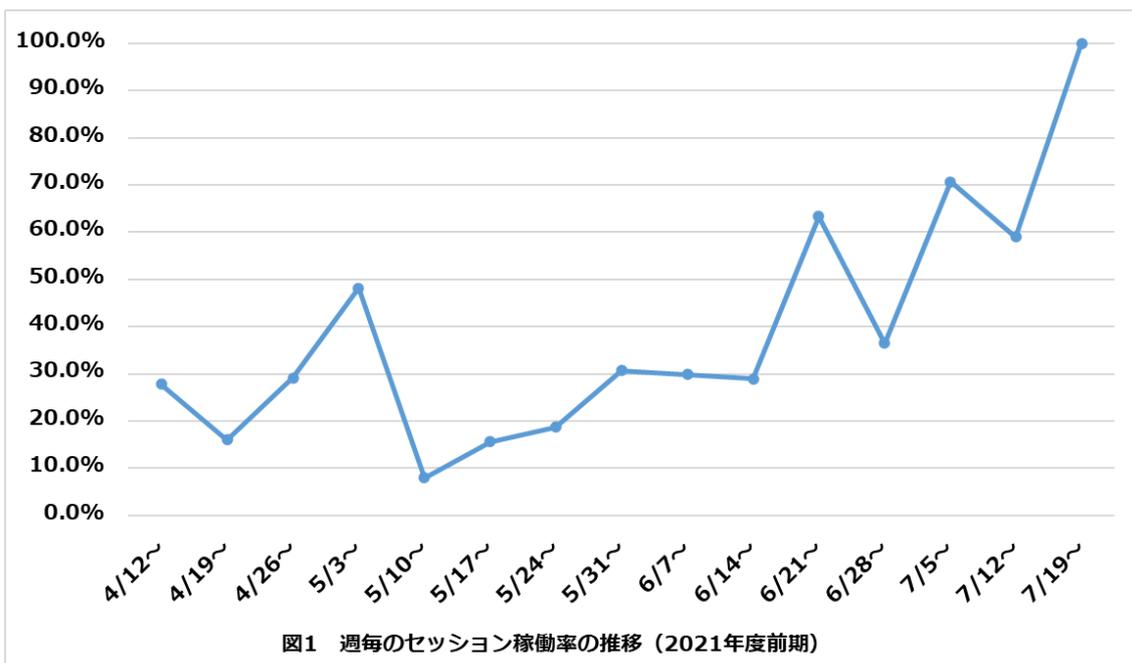
公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

## 1-3 実施セッション数と稼働率

実施セッション数：425 件（前年度 129 件、前年比 329.5%）

セッション稼働率：37.4%（前年度稼働率 49.4%）

セッションの稼働実態を把握するため、以下に、週毎の稼働率の推移（図 1）、週別・曜日別のセッション数と稼働率の表（表 1、表 2）を示す<sup>3</sup>。



<sup>3</sup> 今年度は例年と異なる開室状況のため、2019 年度まで報告していた月別の稼働率、ライティング・ラボ開設時からの利用学生数の推移は記載しない。代わりに週ごとの稼働率を示した。

表1 週別・曜日別セッション数・稼働率（4月第2週～5月最終週）

		4/12～	4/19～	4/26～	5/3～	5/10～	5/17～	5/24～	5/31～
月	設置数		16	16	16	16	12	18	16
	稼働数		4	1	12	0	3	3	7
	稼働率		25.0%	6.3%	75.0%	0.0%	25.0%	16.7%	43.8%
火	設置数		16	16	12	8	12	8	12
	稼働数		2	2	6	1	3	2	0
	稼働率		12.5%	12.5%	50.0%	12.5%	25.0%	25.0%	0.0%
水	設置数	16	16	12	16	16	16	16	16
	稼働数	2	0	3	3	0	0	0	3
	稼働率	12.5%	0.0%	25.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%
木	設置数	19	17	19	19	19	17	17	19
	稼働数	5	7	14	8	2	2	1	4
	稼働率	26.3%	41.2%	73.7%	42.1%	10.5%	11.8%	5.9%	21.1%
金	設置数	19	16	16	20	16	20	16	12
	稼働数	8	0	3	11	3	4	8	9
	稼働率	42.1%	0.0%	18.8%	55.0%	18.8%	20.0%	50.0%	75.0%
計	設置数	54	81	79	83	75	77	75	75
	稼働数	15	13	23	40	6	12	14	23
	稼働率	27.8%	16.0%	29.1%	48.2%	8.0%	15.6%	18.7%	30.7%

表2 週別・曜日別セッション数・稼働率（6月第1週～7月第4週）

		6/7～	6/14～	6/21～	6/28～	7/5～	7/12～	7/19～	計
月	設置数	20	20	20	20	20	20	20	250
	稼働数	6	6	8	5	15	19	18	107
	稼働率	30.0%	30.0%	40.0%	25.0%	75.0%	95.0%	90.0%	42.8%
火	設置数	12	12	12	12	12	12	12	168
	稼働数	0	4	8	2	4	8	13	55
	稼働率	0.0%	33.3%	66.7%	16.7%	33.3%	66.7%	108.3%	32.7%
水	設置数	16	12	14	16	14	16	14	226
	稼働数	2	3	5	5	7	7	15	55
	稼働率	12.5%	25.0%	35.7%	31.3%	50.0%	43.8%	107.1%	24.3%
木	設置数	19	19	19	17	14	19		253
	稼働数	11	2	20	9	15	5		105
	稼働率	57.9%	10.5%	105.3%	52.9%	107.1%	26.3%		41.5%
金	設置数	20	20	14	20	15	16		240
	稼働数	7	9	9	10	12	10		103
	稼働率	35.0%	45.0%	64.3%	50.0%	80.0%	62.5%		42.9%
計	設置数	87	83	79	85	75	83	46	1137
	稼働数	26	24	50	31	53	49	46	425
	稼働率	29.9%	28.9%	63.3%	36.5%	70.7%	59.0%	100.0%	37.4%

注) 100%超の週は、提出期限直前等の学生対応のため、設置数より多くセッションを行った週である。

## 【所見】

今年度の実施セッション数は、昨年度前期と比べて3倍以上になっている。例年どおりのスケジュールで開室した昨年度後期（355件）と比べても増加している。

一方で、稼働率は37.4%と低く、昨年度よりも低下した。稼働率が低かった主な要因として、設置セッション数の大幅な増加との広報活動の不十分さの2点が挙げられる。第一の要因である設置セッション数の大幅な増加には、3つの理由がある。第一に、開室曜日を昨年度までの週4日から週5日へと拡大したためである。第二に、チューター数の増加である。昨年度前期と比べてチューターが3名増えたため、実施可能なセッション数が増加した。第三に、連続セッションの予約枠を拡大したためである。今年度は大学院事務室より事務業務の支援を受け、操作や学生への案内をスムーズに行うことができたようになったため、昨年度は抑制していた連続セッションの予約枠を増やした。稼働率が低かった第二の要因は、ライティング・ラボの広報活動の不十分さである。オンライン授業が中心になったこともあり、学内での周知が不十分な面がある。以上のような要因により、稼働率が低かったと考えられる。

週毎の推移をみると、5月の1週目と7月以降の稼働率が高かった。5月1週目に利用が多いのは、大学院生が研究計画書を提出する時期と重なるためと考えられる。7月以降の利用が多いのは例年の傾向であり、学期末のレポート課題が出されたためと、学期前半に利用した学生がくり返し利用しているためであるとされる。一方で、5月中旬から6月中旬にかけては稼働率が20～30%と低かった。この時期にはまとまったレポート課題を課す授業が少ないため、利用が少なくなっている可能性がある。

曜日別にみると、週の初めの月曜日と週の終わりの金曜日の稼働率が他の曜日に比べて高かった。昨年度も月曜日と週の終わりの木曜日の稼働率が高く、同様の傾向であった。週半ばの曜日は授業が多いためと、週末にまとめて作業をする学生が多いためであると推測される。後期は例年、卒業論文や修士論文の相談が増えて稼働率が上昇するため、締切直前ではない早い段階からの利用や火曜日・水曜日の利用を、ホームページやTwitter、C-plus等で呼びかけていきたい。

## 1-4 利用学生の内訳<sup>4</sup>

\* 利用学生数（延べ）<sup>5</sup>

2021 年度前期合計 425 名（前年度 129 名）

\* 利用学生の所属

法学研究科	28 名
経済学研究科	9 名
商学研究科	9 名
文学研究科	39 名

<sup>4</sup> 今年度は利用学生が留学生かどうかはたずねていないため、日本人学生と留学生の内訳は記載しない。

<sup>5</sup> 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。

総合政策／公共政策研究科	67 名
理工学研究科	1 名
法学部	65 名
経済学部	71 名
商学部	3 名
文学部	103 名
総合政策学部	27 名
国際経営学部	3 名
国際情報学部	0 名
理工学部	0 名

\* 利用学生の学年

学部 1 年	100 名
学部 2 年	24 名
学部 3 年	50 名
学部 4 年	98 名
学部 5 年以上	0 名
博士課程前期／修士	60 名
博士課程後期	83 名

## 1-5 相談文章の種類<sup>6</sup>

卒業論文・修士論文・博士論文	24 件
授業のレポート	190 件
投稿論文	59 件
研究計画書	82 件
授業の発表資料	40 件
学外での発表資料	21 件

### 【所見】

利用学生の所属内訳からは、特に文学部の学生と総合政策／公共政策研究科の大学院生の利用が多いことがわかる。文学部の学生の利用が多いのは、他学部に比べて、ライティング・ラボの利用を推奨する教員、TAをしているチューターが多く、オンラインガイダンスを実施する機会も多かったためであると推測される。総合政策／公共政策研究科の大学院生の利用が多いのは、留学生が日本語表現の相談も含めて継

---

<sup>6</sup> 受付台帳およびセッション報告から把握できた 416 件の内訳を示した。

続的に利用しているケースが多いためであると考えられる。今後は、利用者の少ない学部や研究科の利用促進に向けて、広報活動に力を入れるとともにニーズを探っていきたい。特に、商学部の学生の利用は例年少ない傾向にあり、具体的なニーズを探ったり、商学部教員への広報活動を強化したりする必要がある。オンラインセッションを実施しているため、国際情報学部や理工学部など多摩キャンパス以外の学生にも利用を呼びかけたい。

学年の内訳をみると、学部1年生の利用と学部4年生の利用がそれぞれ全体の4分の1弱と多かった。相談文章の種類は授業レポートが4割強であった。大学入学後に初めてレポートを書く1年生の利用が多いことがうかがえる。学部4年生の利用は、卒業論文での利用に加えて、大学院入試用の研究計画書の相談での利用も少なくない。下級生の頃に利用した学生が久しぶりに利用するケースも少なくない。

新型コロナウイルス感染防止のために大学の入構が制限されるもとの、教員や大学院生に相談する機会が減少しているため、ライティング・ラボでのセッションが大学院の様子を知る貴重な機会となっている。今後も、学術的文章作成に対するアドバイスを通して、学生が安心して大学生生活を送れるよう支援していきたい。

## II セッション以外の活動

### II-1 FOREST GATEWAY CHUO への移転

4月初旬に移転完了し、今学期より FOREST GATEWAY CHUO5階でセッション等活動を実施した。

〈設備・備品等〉

Wi-fiの接続不安定でZoomが落ち、有線接続に切り替えるというアクシデントがあったが、オンラインセッション・対面セッションともに設備・備品等に概ね問題ない。ただし、今後セッション設置数や利用学生の増加に伴い、ブース内からの声もれ等への対応を検討する必要がある。

〈学生利用〉

対面セッションを希望する学生も一定数いたことから、コロナ終息次第対面セッションを再開したい。自習スペースに関しては、利用学生が連日おり、アカデミック・ライティングへの親近感、ラボ利用の心理的障壁の削減に繋がる効果があると思われるため、可能な限り開放していきたい。

### II-2 配布資料

アカデミック・ライティング部門長による監修作業、およびチューターによるデザイン入

れは終了している。今後、セッション内で利用する配信資料とは別に、印刷物としても配布できるように準備を進める。

## II-3 宣伝

### II-3-1 オンラインガイダンス

今期もオンラインガイダンスの宣伝をしたものの、問い合わせは2件（うち1件は後期に実施希望）にとどまった。チューターがTAをしている教員への呼びかけを行うなど、教員へのラボの活動の周知が今後の課題であろう。

### II-3-2 オンラインによるセミナーとワークショップ

ラボの宣伝を主目的として、オンラインによるセミナーとワークショップを計5回実施した。実施の詳細は以下の通りである。

#### 〈セミナー〉

日時：プレ開催	5月24日（月） <sup>7</sup>	12:40-13:10	（参加約40名）
第1回	6月7日（月）	12:40-13:10	（参加約50名）
第2回	6月16日（水）	12:40-13:10	（参加約30名）

#### 〈ワークショップ〉

第3回	6月25日（金）	13:30-14:30	（参加約10名）
第4回	6月30日（水）	13:30-14:30	（参加約20名）

内容：プレ・第1回	序論・本論・結論の書き方
第2回	問いの立て方
第3・4回	「パラグラフ・ライティング」のススメ

#### 【所見】

オンラインガイダンスの依頼数が少ないため、来学期以降は新しいラボへの見学ツアーを宣伝していきたい。オンラインセミナー・ワークショップについては、参加者数はのびなかったものの、セミナー・ワークショップ参加後に、ラボを利用する学生もいたことから、一定の効果があったと言える。来年度以降は、学生の要望から、「昼休みでのワークショップ」を実施する工夫を検討していきたい。

---

<sup>7</sup> 5月24日は、文学部の新入生対象にパイロットとして実施した。

## II-4 研修

### II-4-1 チューター全体研修

シニアチューター中心に全体研修を4回実施した。研修の目的は「チューター間での学び合い」とし、各回のテーマは、「チューターがセッションで難しいと感じていること」から取り上げた。セッション稼働率に余裕がある時期は事前課題を課す等、実施方法を工夫し、日々のセッションにおける課題解決に繋げる学び合いを目指した。

### II-4-2 新人チューター研修

今期就任の新人チューター1名に対し、配属曜日のチューターを中心に、文章診断練習・セッションの計画・模擬セッションなどを約1ヶ月半にわたって実施した。対面セッション実施期間は、ラボ内での研修も実施できたことから、昨年よりもスムーズであり、新人チューターの不安感も減少したと思われる。ライティング・ラボ初の日本語非母語話者チューターであるが、研修もスムーズに行われ、学期末までにはセッションを1人で担当できるようになった。今後もライティング・ラボでは、可能な限り様々な形での院生に対するキャリア支援を継続していきたい。

#### 【所見】

4月5月の比較的余裕がある時期にチューター研修を実施することで、セッションの質の担保・向上を目指した。学内勤務時は勤務日に先輩チューターのセッションを見学したり、セッション直後に相談したりすることでセッションスキルの移転が生じるが、在宅勤務時は、オンラインでのセッションスキルの共有が困難である。在宅勤務時のセッションの質の担保・向上に向け、来期以降も、事前課題を出すなど工夫して、効率のよい研修に繋げたい。

## II-5 受付他事務業務

今期より、大学院事務室から受付他の事務業務の支援を受けた。昨年度、オンラインセッションの受付業務はSV/ASVが担当していたため、繁忙期は受付セッション数の減少、学生対応の遅延、セッションで検討する文章処理の混乱などが起きたが、今期はそれらの業務を事務室担当者が担ったため、より丁寧な学生対応が出来、SV/ASVがセッションに集中できたことから、ラボ全体の質の向上に繋がった。事務室担当者による業務は主に①セッション予約受付処理、②検討文章の受付処理、③窓口での学生対応の3点である。

## II-6 中大付属杉並高校チューター派遣業務

報告書を別添1に記載する。

## III 来期に向けた所見

### III-1 チューター公募

今学期も公募を実施する。面接は対面での実施を予定している。2～3名の採用を目指す。

### III-2 来期のセッション形態

来期は、コロナ感染状況にもよるが、できるだけ対面セッションとオンラインセッションの同時開室を行いたい。しかしながら、人員面で週5日全日開室は困難であるため、前期同様週5日開室するものの、半日開室（1～4セッション、または4～7セッションのいずれかで実施）とする（木曜日のみ全日開室）。なお、中央大学付属杉並高校においては、来学期も全てオンラインでセッションを実施する。

### III-3 来学期のセッション期間について

今学期は、繁忙期に予約が集中し、十分な対応ができないケースがあった。7月以降は連日ほぼ全枠埋まり、延長セッションが必要な学生への対応が不可能であった。執筆する前の段階や草稿段階からラボが利用できることを周知し、早い段階での利用に繋げ、繁忙期の緩和に繋げる工夫がある。しかしながら、利用学生から「満席で予約がとれない」「7月末締切のレポートを書いてセッションを受けたいが、ラボが閉室してしまい受けられない」という声も出たため、学期末のセッション枠増加・学期終了時のラボの開室期間延長について検討もしていきたい。

以上

2021年8月18日

スーパーバイザー 中野玲子

アソシエイト・スーパーバイザー 峰尾菜生子

## 【別添 1】

### 中央大学附属杉並高校遠隔セッション(前期) 実施報告書

2021 年 7 月 29 日(木)

担当チューター：上條 由貴  
黒田 将司

## 1. 開室日時

### (1) 開室日

・5月：10(月)・28(金)・31(月) 3日間

※このほか、24(月)にワークショップ「問いの立て方」を開催。

・6月：4(金)・7(月)・11(金)・14(月)・18(金)・21(月) 6日間

以上より、3+6=9(日間) ※ワークショップは開室日時に含めないものとする。

### (2) 時間帯・場所

各日①15：50～16：30、②16：40～17：20、③17：30～18：10 で実施。

場所については、多目的教室または自宅から通信を行う形で実施。

通信は Cisco 社の WebEx Meetings を活用し、文書等の共有は同システムのほか、Google ドキュメントおよび Google スライドを活用し実施した。

## 2. 担当チューター

月曜日：上條 由貴チューター (文学研究科 博士前期課程 2年)

金曜日：黒田 将司シニアチューター (法学研究科 博士後期課程 1年)

## 3. セッション設置数

各日 3セッション設置。したがって、

5月：3×3=9(セッション)

6月：6×3=18(セッション)

以上より、設置数=9+18=27(セッション)

## 4. セッション実施数

5月：4件 (内訳…月曜 2件・金曜 2件)

6月：16件 (内訳…月曜 9件・金曜 7件)

以上より、実施数=4+16=20(件)

## 5. 稼働率

稼働率＝実施数÷設置数とし、かつ小数点第 2 位以下を切り捨てとして算出した結果、以下の通りとなった。

5 月の稼働率：44%(4/9)

6 月の稼働率：88%(16/18)

全体の稼働率：74%(20/27)

## 6. セッション所見

### (1) セッション環境・稼働率について

今期は新型コロナウイルスに由来する緊急事態宣言のため、昨年度に続き WebEx 等を活用したオンラインセッションを実施した。今期の特徴としては、多目的教室のみならず自宅からセッションを受けるほか、PC 以外のタブレット・スマートフォンといった機種で参加する学生がいた。そのため、学生各々の通信環境に応じた対応を求められる事例があった。具体例として、以下 2 つの事例が見られた。

①PC では Google ドキュメント等で文書を共有しチューター・学生双方による作業が可能であったのに対し、タブレット・スマートフォンでは機種・通信環境次第で文書の共有が不可であるため、結果として言葉だけでやり取りをしていた。

②自宅からのセッション参加の場合について、電車の遅延等の理由で学校からの帰宅までに時間がかかり、結果として限られた時間でセッションすることになった。なお、延長等の救済措置は次セッションに予約が入っていた関係で不可だった。

したがって、セッションに参加する環境で新たに問題が生じており、大学ラボでのセッションと同等のサービスを維持するため今後どう改善すべきかが課題と見ることができる。

次に、稼働率に関して、今期全体の稼働率は 74%と高めであった。特に、6 月の稼働率が約 9 割に及んだことから、卒論に関する悩みの相談相手としてのラボに対する需要が高かったものと見られる。また、5 月の稼働率よりも 6 月の稼働率が高いことから、アイデア段階での相談よりも構成を組み立てる段階での相談が多かったものと見られる。したがって、構成を組み立てる段階で悩んだ学生の相談相手としてラボの需要が非常に高かったものと見られる。

### (2) 学生がどういう悩みを持って来室したか

#### 【上條チューター】

5 月中は、テーマの設定が出来ていない生徒が多く、どのような内容で論文を書くか、ブレインストーミングを使い整理しながら進めた。6 月中は、問いをより深めていきたいという生徒が自主的にラボを利用する姿も見受けられ、問いに対しての「根拠」について掘り下げつつ進めた。同時に、インプット、アウトプットの確認も行った。また、駆け込みで「テーマが定まらない」生徒もラボを利用しており、字数や文献があるか、答えが出せそうなテーマかなどを一緒に考えていった。

前期のセッション全体を通して、テーマや問を掘り下げることが中心だった。また、対話を通して、自分の言葉で話すことで、考えや取り組みたいテーマが定まっていく様子だった。

#### 【黒田チューター】

今期は探求マップ作成が中心だったため、マップの内容に関する悩みがほとんどだった。しかし、5月末ごろにあった先生によるコメントの前後で相談内容が異なっていた。具体的に、先生のコメント前はテーマと構成の論理的つながりに関する悩みが多かったのに対し、コメント後はさらに主張と根拠、学術的文章の書き方で悩み来室する学生が多く見られた。その他に、先生の指摘があった箇所の原因が理解できなくて悩み来室した学生も多く見られた。悩みの原因については、テーマが決まっている場合とそうでない場合で分かれていた。

まず、テーマが決まっている場合について、マップは埋めてあるが「問い—答え」や「主張—根拠」との関連性が不明確な場合があった。その原因について、①論点が明確でないため問いが曖昧である場合と②語句が不明確で相手に伝わりにくい場合、③根拠が客観的でなく主観的な内容に基づく場合、の3点が見られた。

次に、テーマが決まっていない場合について、原因として①テーマに関するインプットが不足し、そのためアイデアが浮かんでこない場合と②自身の能力以上である難易度のテーマ設定により、情報収集や締め切りまでの執筆スケジュールを立てることが困難に陥っている場合、の2点が見られた。

以上の悩みとその原因をふまえ、チューターと学生間における対話を通してアイデアの整理や論点の絞り込み、明らかになっていない箇所の視覚化等を行った。結果として、多くの学生が「気づき」を得て突破口を見出すことができた。

### (3) どのような観点からセッションを進めたか

#### 【上條チューター】

テーマ設定と、書き手の問題意識を中心にセッションを進めた。

#### 【黒田チューター】

テーマと問い、構成と構成要素、主張と根拠、語句の明確化、論点の設定、学術的文章の書き方の6つの観点から検討を行った。その他に、5月のワークショップ「問いの立て方」における「理想的な問いを立てるための3つのポイント(対象が明確、方法が明確、卒論として適切)」に基づく確認を行った。

### (4) その他所見等

#### 【上條チューター】

ほとんどの生徒が、曖昧ではあるが書きたいことは決まっていた。それをどのように膨らませていくか、具体化するかが難しい様子であった。一度突破口を見つけると、自信を持つ

て自分の書きたいことを話すことのできる生徒ばかりだった。このことから、チューターとしてどうアイデアから具体化に繋げてあげるかが課題であると感じた。

#### 【黒田チューター】

テーマが決まっていない学生については、ラボのブレインストーミングを通して気づきが得られ、次にすべきことが明確になっていた。しかし、テーマがある程度決まっているものの先生のコメントで指摘されている学生の場合が最も注意を要すると感じた。というのも、議論の対象や方法が明確であっても自身の能力以上の難易度であるテーマの場合や、そもそもテーマに関する情報がほとんど無かった場合、卒論に不適切なテーマとなるためである。ゆえに、類似または全く異なるテーマに変更をしなければならない可能性も出てくるため、どう学生の不安を取り除きつつセッションを進行するかが今後の課題になると感じた。

以上